

1 学校経営の基本構想

(1) 学校経営の基盤

- ① 日本国憲法、教育基本法、学校教育法や教育関係の法令、子どもの権利条約、こども基本法（こども大綱含む）、学習指導要領を基盤とし、福岡県教育施策実施計画及び古賀市教育大綱、古賀市教育行政の目標と主要課題に則り、生徒や保護者、地域及び学校の実態に即して教育を行う。
- ② 学校は、全ての子どもが自立して社会で生き抜くための基礎を培う学びの場であり、社会総がかりで子どもたちを育むための地域の「拠点」である。
- ③ 保護者や地域の方々が「仲間や家族のような存在」（パートナー）や「活動を支持、後押しする存在」（サポーター）として機能していただけるよう、「一緒になって創造し、推進していく」（ジェネレート）存在となる。
- ④ 中立性を確保し、公共性、公益性を目指して生徒の学習する権利を保障し、その実態を保護者や地域に公開することを原則とする。
- ⑤ 全ての生徒、教職員の個性、多様性を大切にし、福岡県人権教育啓発基本指針、学校教育における在日外国人の人権に関する指導上の指針、古賀市人権施策基本方針に基づいて人権教育を推進する。

(2) 学校の教育目標

ふるさとを愛し、何よりも自他の命と人権を大切にしながら、好奇心をもって
夢をかたちにしていく生徒の育成
— 校訓 — 「向学」 「友情」 「創造」

(3) 具体目標

① 目指す生徒像

- ア ワクワクした好奇心をもち自ら課題をみつけ、夢の実現のために試行錯誤を積み重ねて解決に向かって取り組める生徒【向学】
- イ 自他の命と人権を守り、相手の心に思いを馳せ、個性や多様性を認め合う、思いやりの心をもった生徒【友情】
- ウ 夢をもち、かたちにしていく行動をとることでトキメキを感じ、創意工夫を重ね、粘り強く努力する生徒【創造】

② 目指す学校像

- ア 「はじめに子どもありき」のもと、生徒の可能性を信じ、生徒も教職員もワクワクしながら教育活動が展開される学校
- イ 生徒一人ひとりが自立して社会を生き抜くための基礎となる学びを育む学校
- ウ 保護者、地域がパートナーやサポーターとして機能するよう、地域の拠点としてジェネレート（一緒に創造する）する学校

③ 目指す教職員像

- ア 生徒の命と人権を守り、保護者の願いに寄り添い、未来志向で愛情をもって寄り添う、情熱溢れる教職員
- イ 法令遵守への高い意識をもち、積極的に自己研鑽に取り組み、社会から信頼される高い倫理観を持った教職員
- ウ 保護者、地域と協働して、将来を担う人財をともに育もうとする、つながりを大切にする教職員

④ 目指す授業像

- ア 前のめりになる、対話したくなる、既存の知識・技能を活用せざるを得ない、学びの必然性がある授業
- イ 自己存在感、共感的人間関係、自己決定の場、安心・安全な環境が保障されている授業
- ウ ICT機器の活用などによる個別最適な学びと協働的な学びを一体的に推進する授業

⑤ 期待する保護者・地域像

- ア 学校のパートナー、サポーターとして、子どもたちの命と人権を守り、個性や多様性を尊重する
- イ 全ての子どもたち、そして大人（保護者、地域、教職員）のウェルビーイングも追求する
- ウ 教育活動を支援、協働して、学校とともに防犯・防災・安全にも努める

(4) 本校の教育課題と経営課題

① 教育課題

- ア 生徒がワクワク・トキメキを感じる主体的・探求的な学びの推進
- イ 社会で自立して生き抜くための自治力や思いやりの心の醸成
- エ ダイバーシティに対応した個別の課題に迅速に対応できるシステムの充実

② 経営課題

- ア 令和の日本型学校教育における教育課程の充実をめざし、不易と流行を見極めつつ、挑戦を恐れない姿勢の構築
- イ 「はじめに子どもありき」を徹底したり、暗黙知を共有したりするために必要な知識、対話の充実
- ウ スピード感をもって様々な課題に対応し、全ての教職員でサポートし、高め合えるシステムの充実
- エ 保護者や地域に、パートナーやサポーターとなってもらうための、創り出す発主体（ジェネレーター）としての対話の推進
- オ 物価高騰に伴う保護者の負担を軽減するための取組の推進

2 本年度の経営の重点

(1) 本年度の重点目標

好奇心と思いやりの心を持ち、ワクワクとトキメキを感じながら、夢をかたちにしていく生徒の育成
～ つながる力(人間関係形成)・ささえる力(社会参画)・かなえる力(自己実現)を育てる学校 ～

(2) 重点目標達成のための方策

① 教育活動の充実

- ア 保護者、地域がパートナーやサポーターとして機能するようジェネレート（一緒に創造する）する拠点となり、古賀市の将来を担う子どもの育成に努める。
- イ 特別活動をはじめ、学年、学級経営、あらゆる授業や行事等において「つながる（人間関係）」「ささえる（社会参画）」「かなえる（自己実現）」の3視点で整理した資質能力を育むことを促す。そのために教科横断的なカリキュラムマネジメントを推進する。
- ウ 何よりの命と人権を大切にするため、「ココロとカラダの天気」の活用を行い、早期発見、対応を推進する。
- エ 前のめりになる、対話したくなる、既存の知識・技能を活用せざるを得ない、学びの必然性がある授業改善に努め、生徒が自立して社会で生き抜くための基礎となるあらゆる力（非認知能力を含む）を育む。
- オ 令和の日本型教育に則った、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に推進させるために、

ICT 機器を創意工夫して日常的に活用した授業を行う。

- カ 生徒指導提要に基づき、「自己決定の場を与える」「自己存在感を与える」「共感的な人間関係を育成する」「安心・安全な環境（心理的安全性を含む）が保障されている」授業やあらゆる教育活動を推進する。
- キ 誰もが落ち着いて学べる特別支援教育の視点（ユニバーサルデザイン）に立った学習環境づくりに努める。
- ク ダイバーシティをはじめ、人権教育の視点に立った授業づくり、人間関係づくり、環境づくりを行い、すべての生徒の学力と進路の保障に努め、「はじめに子どもありき」の視点に立って、誰一人取り残さないために ICT 機器を活用する。
- ケ 月1回の協働ウィークによる「シャッフル担任制」の導入により、生徒や保護者が様々な教職員と関わりを日常的に持ち、いつでも相談しやすい体制を整える。

② 組織運営の充実

- ア 素早く正確な判断や迅速な行動をとるためのフレームワーク【OODA ループ】[Observe（観察）、Orient（状況判断）、Decide（意思決定）、Act（行動）の4つのフェーズから構成される]を機能させ迅速な改善につなげ、会議時間を大幅に縮減し生徒に寄り添う時間の確保に努める。一方で「はじめに子どもありき」の徹底や、暗黙知を共有するために必要な場面では、しっかりと対話する時間を確保する。
- イ 教職員相互の「感謝」の表現、「寛容」の雰囲気、「思いやり」の表明を重視して教職員のウェルビーイングを追求し、互いにケアし合い、生徒、保護者、地域のウェルビーイングの充実に活かす。
- ウ 副学年主任等、主任・主事等に「副主任・副主事」を新設し、次世代のリーダーを育成するとともに悩みや仕事を抱え込みオーバーワークを減らし、協働しながら職務遂行をめざす。
- エ リスクマネジメントとともに、生徒、保護者、地域の信頼関係の構築のため「誠実」&「スピーディー」なクライシスマネジメントを心がける。
- オ 月1回の協働ウィークによる「シャッフル担任制」を導入し、教職員同士が日常的に支え合い、同僚性を発揮し、孤立させない、高め合えるシステムを構築する。
- カ 職場環境の点検・改善を図る「学校衛生委員会」を年3回実施し、働き方改革推進の拠点とする。
- キ 個別の人権課題や SNS 等におけるネット差別、LGBTQ 等を題材にした授業に取り組むなど、新たな人権学習の充実に努め、「ふれる・気付く」「深める」「発信する・行動する」に分類・整理していく。
- ク スクールコンプライアンスの日を設定し、職員研修の実施や不祥事防止のためのチェックリストや AUDIT を実施する。また、評価面談時を活用して、ヒアリングを実施し、法令遵守意識を高める。